

第4回基本構想検討委員会において委員から出された主な意見等

1 基本構想(骨子)について

- シンボルマークとともにシンボルカラーについても検討し、情報発信に役立ててはどうか。
- 式典行事の基本的考え方のうち、次世代を担う子供たちの視点は特に重要であり、具体的な検討が必要。
- 植樹会場は必ずしも1会場に絞る必要がなく、参加者の宿泊先等を考慮して様々な企画を検討すればよいのではないか。
- プレ行事等も含め、衰退した海岸林の再生を図る取り組みとして、クロマツの植樹活動を計画すればどうか。
- 戦後、植林された木が育ち、利活用できる時代に入ってきており、今一度新しい命を育てる植林、それをどう育てて、木材としてどう利活用するのか、といった流れをポストイベント或いはプレイメントの中で見せていく仕組みができればよい。
- 木材の利活用をテーマにした植樹祭というのは非常に画期的であり、式典や広報活動にどのように木材の利活用を盛り込んでいくかが、大きなポイント。

2 式典会場の選定について

- 陛下が全国各地の植樹祭に参加されるのは、国民といっしょに国土の復興や森林の保全を行いたいというお心からだと思し、国民の側も陛下との一体感を期待してのことだと思うので、式典やお手植えは同一会場で行うのが理想。両陛下の健康面でのご負担軽減を考慮しても会場を分散させるのは困難ではないか。
- 1万人規模の参加を想定した広場面積の確保に加え、セキュリティの確保、輸送、1箇所ですべての式典を全て設営できる環境ということ、荒天時の会場も隣接していること等を総合的に勘案すると、木場潟公園が最もふさわしい。
- 植樹祭会場を造成するために伐採を行わないという観点は、前回（昭和58年）の森林公園での会場決定に当たっても考慮されており、広場や駐車場の拡張のために木を伐ることは、県民の理解も得られない点も重要なポイント。
- 戦後造成された森林資源が成熟し、今後は資源を活用していくという時代を迎えている状況の中で、かつて木材の集積地であったことに地名の由来を持つ「木場潟」は、国産材の利活用の重要性を訴えていくという全国植樹祭の新たな方向を作り上げていく場所として、高い情報発信力が期待できる点もポイント。
- 今回の式典会場の議論にかかわらず、温泉地はあまり元気がない中で、「県民の森」を核として山中温泉がもう一度元気を出せるような配慮もお願いしたい。